2019 年 10 月 25 日発行

リスクフラッシュ 286 号(第 10 巻 第 8 号)

Risk Flash No.286(Vol.10 No.8)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長　得田雅章

TOPICS

1. CRR Discussion Paper 発行のご案内（A-36）：酒井泰弘
2. 地域金融・地方創生講演会のご案内
3. 11 月開催イベントのご案内

CRR Discussion Paper 発行のご案内

CRR Discussion Paper No. A-36

「The Hicks-Morishima Approach Reconsidered: Another Look at the Interdependence of Several Markets」

（和訳：ヒックス＝森嶋アプローチの再検討：諸々の市場間の相互連関へのもう一つの視角）

さかい　やすひろ
滋賀大学名誉教授　酒井　泰弘

【研究背景】

私の研究生活は 50 年、内外の学部・大学院学生時代を合わせると 60 年近くになる。私自身と経済学との関わりは、かくも長く、かつ深いものがある。今は亡き義父が口癖のように言っていたことだが、「人生なんて、あっち向いてこっち向いている内に終わってしまう。毎日を悔いのないように過ごしなさいよ」。「誠にその通りだ！」と感じる最近ではある。思うに、私の研究人生において決定的な影響力を及ぼした二人のスーパースターがおられる。その一人は日本人の森嶋通夫教授（大阪大学、ロンドン大学）であり、もう一人は英国人の J.R.ヒックス教授（ロンドン大学、オックスフォード大学）である。　しかも、この二人は学問上の師弟関係にあり、ヒックス老先生が阪大社研の客員教授でおられたこともある。そのうえ、私のロチェスター時代の恩師 L.W.マッケンジー先生自身が、ヒックス先生の初期の学生でもあったという、実に複雑な関係がそこに成立しているのだ。

今は亡き雄弁家・小室直樹氏によると、森嶋通夫先生は存命中、「ノーベル経済学賞に最も近い日本人」と長い間見做されていた。私自身も小室説に大賛成なのだが、森嶋・ヒックス両先生をめぐる次の文章は非常に印象的であるので、今でも片時も脳裏から離れることがない。

「第二次世界大戦中、森嶋氏は海軍将校として、敵国の秘密コードを破る任務を負っていた森嶋少尉が戦線に出た時でさえ、常に携行する英書があった。その書物とは、当時の日本の敵国

人ヒックスの名著『価値と資本』(Value and Capital)であったのだ。森嶋少尉は戦争のことを一時忘れて、この名著を完全に理解しようと奮闘努力されたのである」

森嶋先生自身も後年、青白き学徒時代を回想して、次のような文章を残しておられる。

「私森嶋はかの敗戦直後、京都大学の学生でありまして、ヒックスの『価値と資本』を朝から晩まで夢中で読んでおりました。ヒックスは有名な《市場交換の三法則》を発見しておられましたが、その法則の重要性と拡張可能性を私なりに明らかにすることが、当時の私の重大な使命でありました」

今から考えると、若き森嶋先生の「野心」は大きく、当時の日本の学界のレベルを遥かに超えていた。この野心はやがて結実し、諸々の市場間の相互連関をめぐる「ヒックス＝森嶋アプローチ」としての評価をそれなりに受けることになる。本稿においては、かかるアプローチを現代風に再構成し、その有効性と限界とを私流に更に一層再検討することにしたい。「生命は短く、学問は長い！」この金言の重さを今一度噛みしめたいものである。

【内　容】

本稿で 集中的に取り扱うのは、一般均衡のなかでも最も単純な、森嶋＝ヒックス流の「二財市場連関モデル」である。その最大の特徴は正確に述べると、「価格空間」の中で二つの「超過需要関数」の形状を確定し、交点の存在の有無と安定性、更には比較静学を精力的に行うことである。ここでは、二財間の「代替補完関係」の規模と方向性が決定的な影響力を発揮することがものの見事に示されることになる。

実は、かかる「ヒックス＝アプローチ」は、（後年の森嶋先生自身が自覚されていたように）経済学界の中で「それなりの評価」を受けているものの、未だ「十分に然るべき評価」を受けているとは言い難い。その理由は、第一に、マッケンジー・デブリュー・アロー等によって発展させられた「伝統的な一般均衡モデル」においては、「価格空間」よりも、むしろ「財空間」における均衡解の存在・安定性・最適性が分析の俎上にあげられるからである。次に、経済学研究者の多くは「需要供給曲線」という「一見素朴な概念」に慣れ親しんでおり、「超過需要曲線」というごとき「一見ひねくれた概念」を敬遠しがちなのである。だが、私見によると、「一見ひねくれた概念」の方が案外素直な性格を持ち、そこから 種々興味深い結果が導出されることが多々あるようである。「急がば回れ！」と言うではないか。

単刀直入に述べると、いま「お茶」と「コーヒー」という「代替財」の世界を取り上げ、それぞれを x_1 と x_2 、その価格を p_1 と p_2 とする。すると、最も簡単には、お茶およびコーヒーの「超過需要関数」は、次のごとく書くことが可能である。

$$E_1 : x_1 = -2p_1 + p_2 + 4$$
$$E_2 : x_2 = p_1 - 3p_2 + 6$$

ここで $E_1 = 0$ および $E_2 = 0$ を同時に満足させるような価格のペア（p_1, p_2）= (18/5, 16/5) が、唯一の安定的な均衡価格である。ただし、もし「交差効果」が「自己効果」より強力に働く場合には、均衡価格の安定性は保証されない。さらに、均衡価格の存在すら保証されない場合すらある。

他方、「お茶」と「砂糖」というような「補完財」の場合には、それらの超過需要関数は次のように書ける。

$$E_1 : x_1 = -2p_1 - p_2 + 4$$

$$E_2 : x_2 = -p_1 - 3p_2 + 6$$

明らかに、価格ペア（p_1, p_2）= (6/5,8/5)が唯一の安定的な均衡価格である。係数値の組み合わせ如何によっては、安定性が保証されないケースや、均衡の存在さえ保証されないケースも出てくる。

さらに、もし超過需要曲線が「非線形」の場合には、我々の分析はもっと複雑怪奇なものとなるだろう。たとえば、「複数均衡」の存在の可能性がそれだけ増大するわけである。

もっと興味のある問題は、ヒックスが提起し、森嶋が後に展開した「比較静学的結果」である。具体的には、次のような二つの「ヒックス＝森嶋定理」を樹立することが可能である。

定理　1　（代替財の場合）

一財の超過需要が増加したと仮定する。その場合には、⑴その財の価格は上昇し、⑵他財の価格も上昇する。⑶一財の価格の上昇率は、他財の価格の上昇率を上回る。

定理　2　（補完財の場合）

一財の超過需要が増加したと仮定する。その場合には、⑴その財の価格は上昇するが、⑵他財の価格は下落する。⑶一財の価格の上昇率は、他財の価格の下落率を上回る。

かように、ヒックス＝森嶋定理は、惚れ惚れするほど「美しい定理」である。ドイツの哲学者カントの言ではないが、人は「真・善・美」の備わった素晴らしい完備世界を夢見る傾向があるのだ。

しかしながら、この「不完全な世界」の住人である我々「普通の者」にとっては、ヒックス＝森嶋定理は、余りにも美くし過ぎるかもしれない。私自身はロチェスター時代には、「一般均衡理論」の熱心な研究者であった。しかし、ピッツバーグ時代以降において「リスクと不確実性の経済学」のほうに研究の重点を移行していった大きな理由は、「半合理的・反合理的な現実人間行動の研究」という原点復帰なのである。森嶋通夫先生も晩年の著作において、経済学だけでなく、社会学・教育学・歴史・心理学など、関連分野を大きく包含する「交響楽的経済学」(Symphonic Economics)の構築に心血を注いでおられた。かような「森嶋精神」を受け継ぎ発展させることこそが、「新世紀における新生経済学」の建設へと繋がるものであると信じている次第である。

本ディスカッションペーパーはこちらからご覧いただけます。
https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/3/8.html#SeriesA

地域金融・地方創生講演会のご案内

人口が減少する地域市場での金融機関経営の選択肢～
十八・親和銀行の経営統合を踏まえて

日時：令和 2 年 1 月 23 日（木）15：30~17：30
於：大津サテライトプラザ（JR 大津駅前）
講師：大庫　直樹　氏（ルートエフ株式会社・代表取締役）
主催：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
定員 60 名（参加申込が必要です）

滋賀大学経済学部ファイナンス学科　准教授　菊池健太郎

平素より、滋賀大学経済学部附属リスク研究センターの活動に多大なるご支援を賜りまして誠にありがとうございます。この度、本センターでは、2020 年 1 月 23 日（木）、大津サテライトプラザにおいて、地域金融・地方創生講演会を開催することに致しました。講師に大庫直樹氏（ルートエフ株式会社・代表取締役）をお迎えし、「人口が減少する地域市場での金融機関経営の選択肢～十八・親和銀行の経営統合を踏まえて」と題した講演を頂きます。

講演講師の大庫氏は、マッキンゼー＆カンパニー社に入社後、1999 年に同社のパートナーに選出され、2008 年、独立しルートエフ株式会社を設立されました。この間、メガバンク、地域銀行、消費者金融会社といった様々な業態の金融機関の経営改革に携わってこられました。また、2017 年にはルートエフ・データム株式会社を設立され、データ解析に基づくコンサルティング業務の分野にも進出されております。本業のほか、2012 年～2016 年に大阪府市特別参与、2013 年から金融庁参与（現職）、2016 年から広島県特別参与（現職）として、有識者の立場から金融・地方自治体行政への提言を行うなどの活動もされておられます。金融機関経営に関する著書が多数あり、「新銀行論（ダイヤモンド社）」、「あしたのための「銀行学」入門（PHP ビジネス新書）」、「あしたのための銀行学 2（ファーストプレス）」、「地域金融のあしたの探り方（きんざい）」などを上梓されております。

長らく続く超低金利環境を背景に、金融機関を取り巻く環境は厳しさを増しております。金融機関間の貸出競争が激化しているという現状も耳にします。長期的には

人口減少がもたらす金融機関への悪影響もしばしば指摘されるところです。この数年、地域金融機関同士の経営統合が活発化しているのも、活路を見出そうとする動きと考えられます。持続可能な新たな経営への転換を模索している金融機関も多いことでしょう。

地域金融が健全であってこその地域活性化です。また、地域経済が元気であってこそ、地域金融の健全性が維持されもします。今回の講演会では、金融の世界にとどまらない地域経済にとって重要なテーマを扱うことになります。したがいまして、地域金融・経済に豊富な知見を有する大庫氏のお話を伺えることは、多くの皆様にとって、地域金融や地域社会のあり方を考える貴重な機会になるのではないかと考えております。金融実務に携わっておられる皆様、地域社会の発展に興味を持つすべての皆様の奮ってのご参加をお待ち申し上げております。

参加につきましては、事前申込制ですので、“本センターのホームページ内の応募フォーム、もしくはお電話（0749-27-1404）より”参加申込をお願いいたします。

詳細、お申込みはこちらからでも可能です。

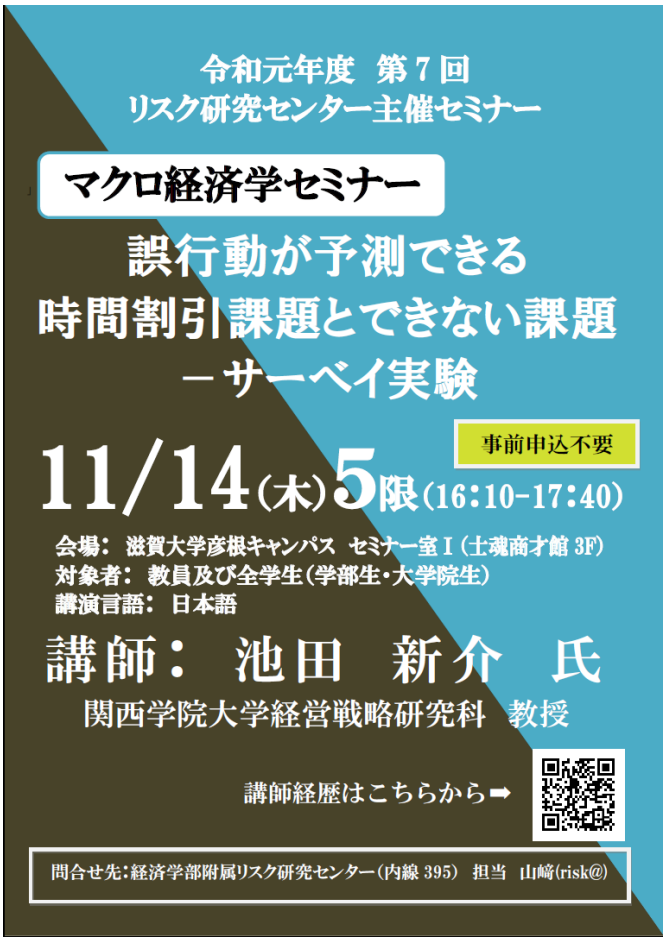
ポスターはクリックすると拡大されます。

11 月開催のイベントのご案内

日　時：令和元年 11 月 14 日(木)　 16：10～17：40（5 限）
会　場：セミナー室 1（士魂商才館 3F）
分　野：リスク研究センター・マクロ経済学セミナー
表　題：誤行動が予測できる時間割引課題とできない課題－サーベイ実験
講　師：池田　新介　氏（関西学院大学　経営戦略研究科　教授）
言　語:　日本語
招聘担当：得田雅章　教授

事前申込は不要です。直接会場へお越しください。

今年度開催イベントの一覧
はこちら



11 月開催のイベントのご案内

滋賀大学経済学部では、今回で 3 年連続の開催となる

国際カンファレンスを開催いたします。

開催概要

日　時：令和元年 11 月 28 日(木）～11 月 29 日（金）

会　場：滋賀大学彦根キャンパス 士魂商才館 3F（セミナー室Ⅰ・Ⅱ）

主　催：滋賀大学経済学部、滋賀大学経済学部付属リスク研究センター

シンポジウム参加対象者：経済ならびに社会科学分野の研究者、実務家、大学院生、学生等

The Conference Theme of the Year 2019:

"Exchange Rate, Capital Flows & Trade Flows"

Keynote Speakers:

Professor　Yin-Wong Cheung (City University of Hong Kong)

Professor Rasmus Fatum (University of Alberta)

Rasmus Fatum 氏のご経歴はこちら（英語）

Yin-Wong Cheung 氏のご経歴はこちら（英語）

Yin-Wong Cheung 氏

Rasmus Fatum 氏

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】
1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】
1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】
1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】
1. 配信メールが回線上の問題（メールの遅延，消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】
1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。
（ https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/3/12.html）

発行：滋賀大学経済学部　附属リスク研究センター
編集委員：得田雅章、近藤豊将、石井利江子、野田昭宏、菊池健太郎、松下京平、井澤龍、清水昌平
事務補佐員：山﨑真理

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月－金　10:00-17:00）
〒522-8522　滋賀県彦根市馬場 1-1-1　TEL:0749-27-1404　FAX:0749-27-1189
e-mail:　risk@biwako.shiga-u.ac.jp
Webpage : https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/
Facebook：https://www.facebook.com/shigariskcenter/
Twitter：https://twitter.com/shigarisk